

世界中の海に暮らすイルカ・クジラ

移動距離 3,000km 冬は断食をするシロナガスクジラ

現在、地球上には90種近い鯨類が生息しているといわれています。生息地は、南極や北極の冷たい海から赤道直下のあたたかい海まで、まさに世界の海に暮らしているといえます。近年では絶滅が危惧される種が多くなっていますが、なかには川に生息する種もいます。

生息範囲や暮らし方は種によって異なり、沿岸に近い場所で群れをつくり暮らすものや、大きなグループでやや広い範囲を移動して暮らす種、沖合を1～2頭で季節回遊して暮らす種など、じつにさまざまです。

ナガスクジラやザトウクジラなど、大型のヒゲクジラの多くは、南極圏や北極圏の氷が溶け、オキアミ等のプランクトンが大量に発生する夏に、餌を求めてこれら極地に近い海を訪れます。ヒゲクジラの仲間には、一年を通して冷たい極地の海で暮らす種もいますが、多くのヒゲクジラは、夏に多くの餌を食べてエネルギーを蓄え、冬になると出産と子育て、繁殖のために赤道に近いあたたかい海へと移動をします。地球最大の生物、シロナガスクジラの移動距離は3,000km以上。数ヶ月で1年分の餌を食べ、彼らの餌となるオキアミのいないあたたかい海で暮らす冬場は、ほとんど餌を食べないといわれます。

その結果、夏の初めに冷たい海に戻るとき、その体重は夏の20～30%減っているそうです。

日本でも、沖縄や小笠原などの南の海には、毎年ザトウクジラが訪れ、出産・子育てをする姿が観察されます。彼らも日本近海ではほとんど餌を食べていないようです。

鯨類の半分の種が暮らす?! 日本の海

複雑な地形と深い海溝を持つ日本の海は、世界的にみても多くの鯨類が生息する地域といわれます。研究者のデータでは、世界に生息する鯨類の約半数、40種ほどが日本近海で観察されています。現在では、捕鯨を行う地域が少なくなったこともあり、近海にイルカやクジラが生息することに気づいていない人も多くなっていますが、観光としてのウォッチングなどが行われていない地域でも、近海に鯨類が生息している場所は少なくありません。何らかの原因で浜に打ち上げられる鯨類のストランディングは、日本各地の海岸で見られます。

一年を通し決まった地域の沿岸に暮らし、ウォッチングなどの対象になっているミナミハンドウイルカやスナメリ。毎年同じ時期に同じ場所にやってくるザトウクジラ。その他にも、多くの鯨類が日本の海に暮らし、ときにはセミクジラやコククジラなどの珍しい種が沿岸で観察さ



©御蔵島観光協会

ミナミハンドウイルカの子どもは、生後数年間は母親と同じ群れで暮らし、餌のとり方などを学ぶといわれている。

れることもあります。日本の海は鯨類にとってもかけがえのない、貴重な海なのです。

しだいに解明される野生の暮らし

動きが早く、広範囲を自由に移動することの多い野生のイルカやクジラの生活は、見るのがなかなか難しく、その生活は謎に包まれています。しかし近年、観察機材の開発や研究者の地道な努力によって、沿岸で暮らす種を中心にその行動や生態が少しずつ分かってきました。

マッコウクジラやミナミハンドウイルカは、日本近海の海でも、よく群れて観察される種です。ところが、その多くは母親を中心とした群れと若いオスの群れです。それぞれの群れには特徴があり、小さな子どもが観察される群れは、数組の親子を中心に構成される子育ての群れ。この群れのなかで子どもたちは、餌のとり方などを習得していくといわれています。

オスは数年を母親の群れで過ごしたあと、若いオス同士で群れをつくり、協力して餌をとり、また独り立ちをする準備をします。そして性成熟をしたオスは、しだいに一頭または数頭で少し広い範囲を移動して暮らすようになるといわれます。

マッコウクジラは、体が大きなオスほど少ない頭数で食べものの多い冷たい海へと旅をし、母親を中心とする群れは子クジラがシャチに襲われる心配の少ないあたたかい海からあまり動かず、若いオスの群れはその中間を移動するというのが、研究者の観察やデータの蓄積で解明されています。そして、オスたちは繁殖時期になるとメスのいるあたたかい海へと戻ってくるのです。

脳を交互に休め、泳ぎながら眠るイルカ・クジラ

鯨類は海洋哺乳類のなかでもいちばん水中生活に適応した種です。出産も子育ても水中で行い、正常な野生の



©御蔵島観光協会



©御蔵島観光協会

若いオスの群れでは、交尾行動をまねたような行動がみられることもある。

イルカ・クジラは陸上に上がることはありません。

つまり睡眠も水中で行うわけです。ただし、肺呼吸をする鯨類は、睡眠中も一定のペースで水面に浮上して呼吸をする必要があります。しかも、サメなどに襲われる可能性がある海洋では、一定の場所にプカプカ浮いて眠ることは危険です。

そこでイルカやクジラは、ゆっくりと泳ぎながら片脳ずつを休めて眠ります。群れで暮らすミナミハンドウイルカは、このとき片目をつぶり、いつもよりも大きな群れで仲間とリズムを合わせて泳いでいることが多く、なかには両目を閉じているイルカもいるそうです。

同じ海洋哺乳類でもアザラシは陸上（氷上）と水中、両方で休みます。水族館で垂直に潜って目を閉じているアザラシを見ることがありますが、あれはうたた寝中のアザラシ。しばらくすると、水面に鼻を出してプカッと呼吸をします。

休憩中のミナミハンドウイルカの群れ。日中、外敵からの危険が少ない浅い海で大きな群れで泳いでいることが多い。